

## グリーン・レガシー・ヒロシマについて

爆心地からおよそ2キロ以内にある、30種以上の約160本の樹木が、広島市によって正式に被爆樹木として登録されています。広島市や樹木医、多くの市民団体や市民によって、長年にわたり大切にされてきたこれらの樹木には、被爆樹木であることを示すプレートがつけられています。

1945年8月6日に広島に投下された原子爆弾により、3分の1を上回る市民が亡くなりました。生き残った人々は、広島焼け跡には何十年も何も育たないだろうと思いました。しかし、そのような荒廃した風景の中に木々が芽生えました。これが希望のシンボルとなり、被爆者たちに復興の勇気を与えたのでした。1950年代には、新しい平和大通り、平和公園や広島大学に植樹をするために供木運動が呼びかけられ、日本国内のみならず世界中から何千もの種や苗が提供されました。この支援によって、広島は、河岸をはじめとする、街の緑化計画に取り組むことができました。長年にわたる「緑」の友好関係のはじまりでした。



被爆樹木シダレヤナギ  
(青少年センター西側)

広島市のHPで被爆樹木のリストと、木の歴史をチェック



2017年米国  
ノースカロライナ大学  
植樹式

2019年縮景園にある被爆樹木イチョウ  
の種取り



被爆樹木は、大きなダメージを受けながらも生き延び、何十年にもわたって葉を茂らせ、花を咲かせ、実をつけ、証人として生き続けています。「グリーン・レガシー・ヒロシマ」(GLH)は、被爆樹木の種や苗を世界に広めようとするこれまでの多くの市民の活動をいしずえに、2011年7月、国連訓練調査研究所(ユニタール)、ANT-Hiroshima、献身的な市民のサポートのもと、ナスリーン・アジミと渡部朋子によって設立されました。GLHは公園や、植物公園、学校、大使館、公共施設や民間施設、あるいは象徴的な場所に被爆樹木の種や苗を届けています。現在、その活動はパートナーや友人の協力を得ておよそ32の国と地域に広がっています。

2012年7月、「グリーン・レガシー・ヒロシマ・イニシアティブ」という任意団体として新たに立ち上がり、2014年には公益社団法人日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産に登録されました。ANT-Hiroshimaとユニタールに加え、広島市、(公財)広島平和文化センター、広島市植物公園、広島大学、広島県などがワーキンググループメンバーとして活動しています。



2014年シンガポール国立大学での被爆樹木二世の植樹式

### 団体概要

Green Legacy Hiroshima Initiative (<https://glh.unitar.org>)  
コーディネーター/共同創設者: ナスリーン・アジミ ([greenlegacy@unitar.org](mailto:greenlegacy@unitar.org))  
パートナー: ユニタール広島事務所 ([www.unitar.org/hiroshima](http://www.unitar.org/hiroshima))

特定非営利活動法人ANT-Hiroshima ([www.ant-hiroshima.org](http://www.ant-hiroshima.org))  
代表/GLH共同創設者 渡部 朋子 ([ant@ant-hiroshima.org](mailto:ant@ant-hiroshima.org))

GLH委員会メンバー  
□コーディネーター/共同創設者 ナスリーン・アジミ

□共同創設者 渡部 朋子

□樹木医 堀口 力

□監事 三登 陽子

□トラスティ 錦織 亮雄

上 真一

瀬尾 篤史

隈元 美穂子

アン・シェリフ

松岡 健太



ヒロシマ被爆樹木ワーキンググループメンバー:

- Green Legacy Hiroshima Initiative
- 平和首長会議 (公益財団法人広島平和文化センター)
- 広島市
- 広島市植物公園
- 広島大学
- 広島県

この用紙は広島平和記念公園に寄贈された折り鶴の再生紙で作られたものです。  
このパンフレットの英語版は「プロジェクト未来遺産」の応援金により作成されました。日本語版は瀬尾篤史氏のデザイン協力のもと、山田英子氏が翻訳に着手し、GLH事務局馬場裕子により2020年に完成しました。

© 2020 Green Legacy Hiroshima Initiative



GLHのHPでどんな国に被爆樹木の種や苗木が送られているか見てみよう (英語のみ)



# グリーン・レガシー・ヒロシマ

## Green Legacy Hiroshima

被爆樹木を訪ねたい人は  
こちらをチェック  
(緑の伝言「時代をめぐる、被爆樹  
巡り」のページに飛びます。)



長年、広島を散策しているうちに、私たちは広島の特  
別な住人ー原爆を生き延びた樹木ーの回復力、寛大さ、美  
しさ、そして、その特別な意義を知るようになりました。

核の悲劇の証人である被爆樹木は、ここ広島に住む人々や  
広島を訪れる人々に対してだけではなく、全人類に対して  
重要なメッセージを伝える、広島の特長な住人です。グリー  
ン・レガシー・ヒロシマは、これらの樹木を守り、その  
存在と意味とを広く知らせるために立ち上げられました。

世界中の多くのパートナーがこの取り組みに参加し、それ  
ぞれの国で、広島の平和のメッセージを緑の遺産とともに  
積極的に伝える大使になってくださることを祈念します。



### A-bombed Trees Map



#### 22 アオギリ 平和公園内

爆心地から1300mのところにあった広島通信局  
の中庭で被爆しました。アオギリは原爆の熱線  
を受けて爆心地側の幹が半分焼けてしまいま  
したが、今では焼けた幹肌を包み込むように新  
しい幹ができています。1973年に現在の場所  
に移植されました。たくさんの2世の苗木が  
世界中で育っています。



#### 6 エノキ 愛宕池(平和大通白神社前)

戦前は直径2メートルを超える一本の巨木で、  
旧国泰寺境内の愛宕池のそばにありました。原  
爆で焼け、切り倒されましたが、その後根元  
から2本の芽を吹き返し、今では別々の木  
のように育っています。ここでは、カキ、ムク  
ノキ、クロガネモチ、センダンの被爆樹木も  
あります。



#### 24 イチョウ 縮景園内

長い歴史を持つ縮景園ですが、原爆が投下され  
たときには被災者であふれました。イチョウは  
樹齢が200年を超えています。被爆により爆心  
地に向かって傾いています。木が倒れるのを防  
ぐために何本かの枝は切られています。爆心  
地側の3分の1がケロイド状になりながらも、  
そこから芽が出ています。たくさんの2世の種  
が世界中に送られ、育っています。

